

令和5(2023)年度の研究成果について

南海トラフ地震発生時における行政の在り方に関する研究

主任研究員 ● 米川 安寿

本研究会は、自治体の防災担当部局へのヒアリングや現地調査を中心として、現下の防災政策の実態把握を中心に研究を進めています。構成員は、飯尾潤・政策研究大学院大学教授をはじめ8人の研究者です。

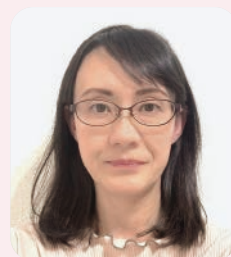
第1回の研究会では、昨年度に実施した兵庫県危機管理部へのヒアリングでの知見を多角的に分析するため、井戸敏三前兵庫県知事との意見交換会を実施しました。全国初の「防災監¹」を任命した貝原俊民元知事の方針を踏襲し、防災を統括する防災監人事に特に注力してきたことや、関西広域連合の整備に尽力したことなど、阪神・淡路大震災の教訓を政策化していく過程と内実を知る機会となりました。

8月には、和歌山県庁と田辺市役所を往訪しました。東日本大震災および紀伊半島大水害での応援・受援の経験から、和歌山県は720人の県庁職員を「災害時緊急機動支援隊」として事前に県下基礎自治体に割り当て、発災時の迅速な派遣を可能とする体制を整備するなど、職員派

遣に特に力を入れていました。田辺市も紀伊半島大水害での経験や、熊本県人吉市の令和2年豪雨災害への職員派遣などを通じ、災害対応のノウハウを蓄積しているとのことでした。

11月には、静岡県庁と伊豆市、沼津市、吉田町を視察しました。静岡県は1970年代から東海地震への対策として一貫して地震津波対策を講じてきた実績により「防災先進県²」と位置付けられることも多いですが、県内4つの「地域局²」によって機動的な災害対応を行う体制を筆頭に、こうした評価を裏付ける各種の意欲的な取り組み内容について、各自治体より説明を受けました。

今後も本研究会では、南海トラフ地震で被害が想定される自治体を中心に知見を深め、発災時における行政の組織体制の在り方を検討していきます。



- 1：阪神・淡路大震災での教訓から、平時・有事の災害対応を統括する立場として、平成8年に創設された役職です。危機管理部長と兼任する形で任命され、災害対策本部(本部長は兵庫県知事)が設置された際には、副知事と共に副本部長として、災害対応を統括します。
- 2：広域である静岡県は西部・中部・東部・賀茂地域(下田市、南伊豆町など)という、地域特性が異なる自治体を擁するため、県と基礎自治体との間をつなぐ主体として、4つの「地域局」が設置されています。地域局はそれぞれ、西部地域局(7市1町)、中部地域局(5市2町)、東部地域局(10市4町)、賀茂地域局(1市5町)となります。

南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究

研究戦略センターでは、巨大災害に備える研究として、「南海トラフ地震及び首都直下地震を対象とした被害軽減に関する研究(令和4～6年度)」を行っており、研究会3年目の最終年度として最終報告書をまとめる予定です。

南海トラフ地震部会(まちづくり分科会・停電分科会)

主任研究員 ● 朴 延

「まちづくり分科会」は、越山健治・関西大学社会安全学部教授をリーダーに計8人の建築・土木専門の研究者で構成されています。本分科会では、まず、これまで防災・

復興「まちづくり」に関係する研究課題を各分野から提示し、南海トラフ巨大地震において取り組むべきまちづくりの課題を整理しました。また、今年1月1日の能登半島地震を

経て、インフラの復旧、液状化被災地・集落単位のまちづくりの論点から、まち・集落としての再生可能性と到達方向性について、直面している課題について議論をしています。

本年度からは、さまざまな復興シナリオを示した上でプランニングする、ここでは過度に復興しない再建計画をシミュレーションすることを目指しています。

「停電分科会」は、奥村与志弘・関西大学社会安全学部教授をリーダーに計5人の研究者で構成されています。本分科会では、南海トラフ地震の人的、社会・経済的被害の「相転移(劇的かつ不連続に被害が拡大する社会現

象)」をもたらす要因を停電の観点から明らかにしています。

能登半島地震では、地震の強い揺れを受け、住宅が倒壊して被害が大きかったというだけではなく、新しい相転移として「複合被害」が発生したことを示しており、新たな教訓についてさまざまな提言も行っています。特に、相転移を発生させない方策や相転移が発生した場合の被害軽減策を提案することを目指しています。



首都直下地震部会(初動対応分科会)

主任研究員●米川 安寿

「初動対応分科会」は、中林啓修・日本大学准教授をはじめ4人の研究者で構成されています。本分科会では、防災や避難への住民の意識に関する実証分析や、消防団員の充足状況、自衛隊との自治体連携の在り方、病院・福祉施設の対応や物資の分配について調査を進めています。

初動対応分科会を構成している研究課題の一つである東京都23区民の防災行動のギャップに関する研究では、区民の意識調査の結果、東日本大震災後に8割近い人々が防災・減災、また首都直下地震への意識が高まったことが分かった反面、必ずしも災害に対する「備え」という行動には結び付いていないというギャップが見られたことから、こうしたギャップにある背景の分析を進めました。また、23区における消防団員の充足率に関する研究では、東京都23区は全国と比べ、さらに東京都全体と比べても消防団員の充足率が低いことが分かりました。

さらに、自衛隊の災害派遣についての研究では、令和4年度に陸上自衛隊を対象に実施した調査結果を取りまと

め、災害対応時に自衛隊が抱えている問題点を分析しました。その結果、自衛隊が広範囲の支援を行っていることが分かり、自衛隊にとって災害支援は平常業務への負荷があること、自衛隊の支援に関しては終期を明確にすることに肯定的な意見が多かったことが示されました。

最後に、災害によるライフライン被害がもたらす医療施設と福祉施設への影響に関する研究では、災害時に社会福祉施設が医療施設よりも優先順位が低くなりがちであることを示しつつ、福祉避難所では特に災害対策の準備を進めることが重要で、行政の支援が求められること、優先順位の総合的な検討が重要になることが考察されました。

本年度もこれらのテーマをさらに掘り下げ、首都直下地震の初動対応に役立つ知見を得ることを目指して研究を進めていきます。



ポストコロナ社会における重要な課題抽出に関する研究

主任研究員●金 恩貞

令和元年に発生した新型コロナウイルス感染拡大により従来の社会システムは大きく揺れ、われわれは社会のあらゆる分野において長期間未曾有の経験をしました。ほぼ全ての国で国境封鎖と外出自粛などの緊急措置が取られる中、さまざまな政治的、政策的、社会的課題が露呈しました。今後、コロナパンデミックのような感染症パンデミックがまた発生した際、いかに対処すべきかが新しい課題となっています。

新型コロナウイルスと関連する社会科学分野の研究は手探りの状況ですが、当機構では次なる感染症災害への「備え」に着目し、パンデミックがまだ収束していなかった令和4年度よりポストコロナ社会に関する研究に取り組んでいました。令和4年度と令和5年度は、本格的な研究会を発足するための準備段階として、ポストコロナ社会における重要な課題抽出に重きを置いて研究会を進めてきま

した。その中で、地震や自然災害に限定されていた「災害」の概念を感染症パンデミックをも含めた広い範囲で捉え直し、当機構の得意分野ともいえる地震や自然災害の研究を感染症パンデミックにも活用できるかを検討しつつ、研究課題を絞ってきました。

本年度からは、行政学の知見と防災学、都市工学の知見を合わせて学際的に研究を推進すべく、異なる学問領域を専門とする研究者を参加メンバーとした研究会を立ち上げ、3年間の研究期間を設けて、コロナ禍が社会に与えた影響を分析・考察した上で、新しい社会システムに関する提言を行うことを目指します。



情報ひろば

研究戦略センター

「ひょうご講座2024」開催のご案内

21世紀文明を切り拓く高度な研究成果や専門的知識を得たいという県民の学習ニーズに応えるため、「ひょうご震災記念21世紀研究機構」のネットワークを活用し、大学教養レベルの高度な学習機会を提供する「ひょうご講座」を開催します。この機会にぜひ受講しませんか。

■一般コース

頻発化・激甚化する自然災害への備えや、日本を取り巻く環境の変化への対応、流動化する国際情勢に対する各国の対応等の理解を進めるため3分野で実施します。

○開講分野

分野名	開講時期	回数
防災・復興：自然災害と共に生きる	9月2日(月)～11月18日(月)	8回
社会・地域：取り巻く環境の変化に対応する日本	9月11日(水)～12月11日(水)	8回
国際理解：流動化する国際情勢と世界の対応	9月5日(木)～12月13日(金)	8回

- 開講時間＝平日18時30分～20時
- 受講料＝12,000円(1分野)
- 定員＝防災・復興分野40人予定、社会・地域分野、国際理解分野各50人予定(先着順。お申し込みはお早めに！)
- 開講場所＝兵庫県中央労働センター(神戸市中央区下山手通6-3-28)
※昨年までの兵庫県民会館から変更になっています

《内容の紹介》

『防災・復興：自然災害と共に生きる』

阪神・淡路大震災から30年。その後も東日本大震災、熊本地震、能登半島地震などの大きな地震や、西日本豪雨などの自然災害が毎年のように日本各地で発生しています。

地球規模の気候変動による自然災害の頻発化・激甚化や南海トラフ地震、首都直下地震などの発生も懸念される中、われわれは自然災害大国日本で、さまざまな自然災害リスクと隣り合わせで暮らしていくことになります。

そこで改めて、自然災害と共に生きるについて考えていきます。

9月2日(月)	阪神・淡路大震災から30年ー能登半島地震に見る反省と教訓ー 講師：室崎 益輝 神戸大学名誉教授・兵庫県立大学名誉教授
9月9日(月)	避難訓練を再考するー「命を守る」につなげるにはー 講師：矢守 克也 京都大学防災研究所副所長・教授
10月3日(木)	災害に備えるー命を守る気象情報ー 講師：南 利幸 南気象予報士事務所代表取締役・気象予報士
10月7日(月)	巨大災害における行政対応と自衛隊との連携 講師：中林 啓修 日本大学危機管理学部 准教授
10月15日(火)	南海トラフ巨大地震に伴う災害関連死 講師：奥村 与志弘 関西大学社会安全学部 教授
10月21日(月)	地震時に命・生活を守るライフライン 講師：鍛田 泰子 神戸大学大学院工学研究科 教授
10月28日(月)	災害時におけるボランティア活動支援 講師：渥美 公秀 大阪大学大学院人間科学研究科 教授

11月18日(月)	誰一人取り残さない防災をめざして 講師：立木 茂雄 同志社大学社会学部 教授
-----------	---

『社会・地域：取り巻く環境の変化に対応する日本』

国際情勢の流動化やAI技術の急速な進化等の中、国内における人口減少等により、イノベーションの推進や人材育成、多発する自然災害等の課題への対応を、日本社会が求められています。

このような変化への対応について、現状や今後の見通し等を幅広く考えていきます。

9月11日(水)	地域経済の可能性を探るーベンチャー精神の軌跡ー 講師：加藤 正文 神戸新聞経済部長・特別編集委員・論説委員
9月18日(水)	生成AIを活用した国際化の推進 講師：金丸 敏幸 京都大学国際高等教育院 准教授
9月26日(木)	オーバーツーリズムの今後を考える 講師：阿部 大輔 龍谷大学政策学部 教授
10月2日(水)	日本を正しく知ろうー大災害に耐える新しい日本の姿が見えてくる 講師：高嶋 哲夫 小説家
10月9日(水)	中国経済の見通しと日本の備え 講師：梶谷 懐 神戸大学大学院経済学研究科 教授
11月13日(水)	気候変動の現在と近未来ー日本は大丈夫か？ 講師：宇佐美 誠 京都大学大学院地球環境学堂 教授
12月6日(金)	日本の進む道ー地域活性化の方向 講師：藻谷 浩介 (株)日本総合研究所 主席研究員
12月11日(水)	少子化する世界でどう生きるか 講師：村上 芽 (株)日本総合研究所 エキスパート

『国際理解：流動化する国際情勢と世界の対応』

激しい米中対立、ロシアによるウクライナ侵攻、緊迫化する中東情勢、そしてグローバル・サウスの台頭など、国際情勢の流動化を受け、日本をはじめ世界各国において対応が迫られています。

そうした急速に変化する世界の動きと、各国の現状や対応を見ていくとともに、日本の取るべき道についても考えていきます。

9月5日(木)	韓国の現状と日韓関係への影響 講師：木村 幹 神戸大学大学院国際協力研究科 教授
9月27日(金)	混迷の中東情勢を読み解く 講師：溝渕 正季 明治学院大学法学部 准教授
10月18日(金)	ウクライナ侵攻が変えたドイツとNATO 講師：岩間 陽子 政策研究大学院大学 教授
10月25日(金)	「Withプーチン」時代を生き抜くためには 講師：佐々木 正明 大和大学社会学部 教授・元産経新聞モスクワ支局長
11月1日(金)	EUの戦略的自律性とは何か 講師：吉田 徹 同志社大学政策学部 教授
11月22日(金)	中国政治の現状と今後 講師：谷川 真一 神戸大学大学院国際文化学研究科 教授
11月29日(金)	アメリカ政治と日米関係 講師：村田 晃嗣 同志社大学法学部 教授
12月13日(金)	ミャンマー内戦の行方 講師：中西 嘉宏 京都大学東南アジア地域研究研究所 准教授

■リカレントコース

AIやICTが急速に進化し社会が大きく変化する中、現役社会人の専門的な学び直しの機会を設け、キャリアアップや起業・転職に向けたセカンドキャリア構築の一助として、新たな時代に対応できるようデータ処理等の入門講座を開設しています。

○開講分野

分野名	開講時期	回数
データサイエンス：ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく	9月10日(火)～11月5日(火)	8回
AI活用実習：AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ	11月7日(木)～12月5日(木)	5回

- 開講時間＝平日18時30分～20時
- 受講料＝5回講座は7,500円、8回講座は12,000円
- 定員＝各20人予定(先着順。お申し込みはお早めに！)
- 開講場所＝兵庫県中央労働センター(神戸市中央区下山手通6-3-28)

《内容の紹介》

『データサイエンス：ビッグデータ、AIとその周辺を読みとく』

情報科学技術の目覚ましい進歩は、社会のあらゆる領域に多大な影響を与えています。とりわけ、ビッグデータ、人工知能(AI)などの活用が注目されています。

今後も進展が予想されるこれらの技術はどのようなもので、どのように進歩してきたか、また、社会との関わりや今後の展開について、関連諸分野を含めて学びます。

※兵庫県立大学大学院情報科学研究科の先生方によるリレー講義です

9月10日(火)	人工知能技術の今 講師：笹嶋 宗彦 兵庫県立大学大学院情報科学研究科兼社会情報科学部 教授
9月17日(火)	道具としてのAIとの付き合い方 講師：大島 裕明 兵庫県立大学大学院情報科学研究科兼社会情報科学部 准教授
9月24日(火)	人の動きや行動を分析する機械学習技術 講師：川嶋 宏彰 兵庫県立大学大学院情報科学研究科兼社会情報科学部 教授
10月1日(火)	文章を扱うAI技術 講師：湯本 高行 兵庫県立大学大学院情報科学研究科兼社会情報科学部 准教授
10月8日(火)	アルゴリズム理論とその応用 講師：宮崎 修一 兵庫県立大学大学院情報科学研究科兼社会情報科学部 教授
10月22日(火)	情報社会を支えるアルゴリズム 講師：玉置 卓 兵庫県立大学大学院情報科学研究科兼社会情報科学部 教授

10月29日(火)	問題解決のためのオペレーションズ・リサーチ 講師：東川 雄哉 兵庫県立大学大学院情報科学研究科兼社会情報科学部 教授
11月5日(火)	最適化技術の応用と進展 講師：藤江 哲也 兵庫県立大学社会情報科学部長 兵庫県立大学大学院情報科学研究科 教授

『AI活用実習：AI活用のための基礎技術とその応用を学ぶ』

ビッグデータの普及を背景にAIは急速に進化し、次世代産業などを担う原動力として注目を集めています。

こうした中、AI活用で多用されるプログラミング言語Pythonによる機械学習プログラミングに取り組みます。PCを使った実習を通して、実際に手を動かして機械学習プログラムを体験することで、その基礎技術に対する理解を深め、今後の応用につながる実践的な知識や技能を身に付けます。

※兵庫県立大学大学院工学研究科の森本准教授から、プログラミング言語Pythonについて分かりやすく学べます

※実習はWindowsノートパソコンで行いますので各自でご用意願います

11月7日(木)	AI活用とは／Python入門
11月14日(木)	Python/Pandasによるデータ分析とMatplotlibによる可視化
11月21日(木)	Python/Scikit-Learnによる機械学習入門
11月28日(木)	Python/TensorFlowによるDeepLearning入門
12月5日(木)	Python/PyTorchによるDeepLearning応用

講師：森本 雅和 兵庫県立大学大学院工学研究科 准教授

応募方法

- 募集締め切り＝8月19日(月)(必着。一般コース、リカレントコースともに)

※「AI活用実習」については、9月27日(金)必着

※インターネット、FAX、郵送で受け付けます。いずれも先着順に受け付け、定員になり次第締め切ります

※台風等や講師の都合により、休講またはオンライン講義となる場合や、担当講師・テーマ等を変更する場合があります。あらかじめご了承ください

【申し込み・問い合わせ】

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

交流推進課 ひょうご講座担当

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

人と防災未来センター東館6階

TEL 078-262-5713 FAX 078-262-5122

<https://www.hyogo-al.jp/kouza/>

Webマガジン

Wonderful
KOBÉ

2巡目の神戸。
明日は今日よりちょっと
幸せになる。

季節の特集、食や暮らし、SDGsの話題に、毎日更新するバンコーナーも。会員登録不要です。



ワンダフルコウベ編集部
(運営:株式会社 神戸新聞総合印刷)

HAT神戸 掲示板

兵庫県立美術館

特別展「描く人、安彦良和」

『機動戦士ガンダム』のキャラクターデザイナー兼アニメーションディレクターであり、漫画家としても活躍する安彦良和の創作活動を展望する回顧展です。北海道遠軽町に開拓民の3世として生まれ、大学では学生運動に参加し、その後上京してアニメ制作に参加、漫画家に転身する激動の半生を振り返ります。アニメや漫画など、特定のジャンルに注目した安彦良和の個展はこれまでも開催されてきましたが、本展は少年期、青年期の歩みから、現在の創作まで、多彩な分野の作品を取り上げ、そこに共通するテーマに迫る、初の試みです。

■会 期＝9月1日(日)まで

■観覧料＝一般1,900円(1,600)円、大学生1,000(800)円、高校生以下無料、70歳以上950(800)円、障害者手帳等をお持ちの方(一般)450(400)円、障害者手帳等をお持ちの方(大学生)250(200)円 ※()内は団体料金

※一般以外は要証明書

◎休館日＝月曜日(ただし、8月12日(月・振休)は開館。8月13日(火)は休館)

◎開館時間＝10時～18時 ※入場は閉館の30分前まで
※展覧会についての詳細は兵庫県立美術館ホームページ(<https://www.artm.pref.hyogo.jp/>)にてご確認ください
◎問い合わせ TEL 078-262-1011



左:『機動戦士ガンダム』(劇場版)ポスター原画©創通・サンライズ
右:『アリオン』(劇場版)ポスター原画 ©安彦良和・THMS

JICA関西

◆食べることから始める国際協力!

JICA関西食堂の月替わりエスニック料理

JICA関西1階の食堂(カフェテリア)は、どなたでもご利用いただけます。完全禁煙で、子供椅子もご用意しておりますので、お子様連れも大歓迎です。月替わりエスニック料理は、いつもご好評いただいております。

8月6日の日・トルコ外交関係樹立100周年にちなんで、8月の月替わりエスニック料理はトルコ料理を予定しています。また、9月21日はペリーズ独立記念日、そして2024年は日・パナマ外交樹立120周年に当たりますので、9月はカリブ海ミックスプレートをご提供する予定です。



写真は7月の大洋州Mix料理

月替わりエスニック料理の詳細と写真はこちら→

JICA関西食堂

<https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/office/restaurant/index.html>



■営業時間＝(昼)11時半から14時まで(夜)17時半から21時まで
※各終了30分前ラストオーダー

■定 休 日＝年中無休(年末年始を除く。)

(注)詳しい休業日についてはJICA関西ホームページをご確認いただくか、下記までお問い合わせください。

◎問い合わせ

JICA関西(独立行政法人国際協力機構関西センター)総務課

TEL 078-261-0341 FAX 078-261-0342

Eメール ksictad@jica.go.jp

その他、詳細はJICA関西ホームページをチェック!

→ <https://www.jica.go.jp/domestic/kansai/>

日本赤十字社 兵庫県支部

司法書士による相続・遺言セミナーを開催します!

令和6(2024)年4月1日、相続登記の義務化がスタートしました。

この機会に、相続登記の義務化も含め、「相続」「遺言」について学びましょう。



○相続・遺言セミナー

■日時＝9月29日(日)13:00～14:30(開場 12:30)

■場所＝アクリエひめじ 4階中会議室

姫路市神屋町143-2(姫路駅から徒歩10分)

■定員＝80人 要事前申し込み(申し込み多数の場合は抽選)

■申込締め切り日＝8月29日(木)

また、同日に相続・遺言無料相談会も開催します(セミナー参加者限定。相談会のための受け付けはできません)。

詳しくは、日本赤十字社兵庫県支部のホームページ(<https://www.hyogo.jrc.or.jp/>)でご確認ください。

「いのちと健康を守る」赤十字の活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金によって成り立っています。

<https://www.hyogo.jrc.or.jp/donate/> →



※日本赤十字社に対して一定額以上の寄付をいただいた場合は、税制上の優遇措置が受けられます

※団体・法人の皆さまの社会貢献のご意向や業種・商品に合った寄付のプログラムをご用意しています

◎問い合わせ

TEL 078-241-8921(振興課)

赤十字 兵庫

検索



日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

令和6年度1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」

平成7(1995)年1月17日に発生した阪神・淡路大震災の経験と教訓を未来に向けて継承していくため、学校や地域で防災教育や防災活動に取り組んでいる子どもたちや学生を全国から募集し、顕彰する事業です。例年、受賞校の表彰式・発表会を兵庫県公館で開催しており、令和6(2024)年度は20回目の開催となります。

次世代を担う子どもたち・学生の防災活動や災害支援に取り組む活動が、防災教育の新たな道を切り開いて進むように、との願いを込めて、1.17防災未来賞「ぼうさい甲子園」を実施します。

[対象部門]

①小学生 ②中学生 ③高校生 ④大学生

⑤特別支援学校・団体

[対象活動]

自然災害から命と暮らしを守るための防災教育や防災活動の取り組み(被災地支援活動も含む)

※学校、クラス、サークル活動、ボランティア活動、地域などの単位で応募してください

[対象期間]

令和6(2024)年4月1日～令和7(2025)年3月31日(活動予定も含む)

[応募締切]

令和6(2024)年9月30日(月)

[問い合わせ先]

〒650-0012

兵庫県神戸市中央区北長狭通4丁目2-19

アムズ元町ビル4階

ぼうさい甲子園事務局(特非)さくらネット

TEL 078-995-7922 FAX 078-939-7035

Eメール bousai_koushien@yahoo.co.jp



ぼうさい甲子園
特設サイト



防災未来賞「ぼうさい甲子園」表彰式・発表会
強化県民運動ポスターコンクール表彰式
・毎日新聞社・(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構 ひょうご安全の日推進市民会議



企画展「令和5年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展」を開催しました

人と防災未来センターでは、6月11日(火)から7月7日(日)まで、西館1階ロビーで企画展「令和5年度ぼうさい甲子園受賞校活動紹介展」を開催しました。

受賞校の活動内容を広く紹介するために、生徒が作成した作品を展示し、防災訓練や避難所運営方法の新たな発案や、防災・減災を学ぶためのさまざまな取り組みを発信しました。



企画展「都賀川水難事故から学ぶゲリラ豪雨と防災」を開催しています

人と防災未来センターでは西館2階「防災未来ギャラリー」において、7月6日(土)より9月29日(日)まで企画展「都賀川水難事故から学ぶゲリラ豪雨と防災」を開催中です。

都賀川水難事故は、平成20(2008)年7月28日に神戸市灘区の都賀川で発生しました。ゲリラ豪雨の影響によって都賀川の水位が10分以内に1m以上急上昇し、都賀川の親水公園にいられていた16名の方が流され、5名が亡くなれています。

企画展示では、都賀川水難事故の概要のほか、ゲリラ豪雨や防災についてもパネルや映像を用いて紹介しています。また、リアルタイムの雨雲の様子を観察できるモニターも設置しています。気候変動の影響によって将来的にさらに激甚化が予想されているゲリラ豪雨に伴って、どのような被害が想定されるのか、被害を軽減するためにはどうすればいいのか、ぜひ企画展示に足を運び、学びを深めてください。

なお、展示は、環境省近畿地方環境事務所「令和6年度気候変動適応地域づくり推進事業近畿地域業務」の枠組みにおいて、一般財団法人日本気象協会と、都賀川水難事故の啓発・教育に関する活動を継続的に行ってきた「7月28日を『子どもの命を守る日』に実行委員会」が共同で実施しています。



〔問い合わせ〕

日本気象協会関西支社 環境・エネルギー事業課
TEL 06-6266-7605
Eメール actionplan.kinki@jwa.or.jp

「地震体験車ゆれるん」がやってきます！ —地震の揺れを体験して災害に備えよう！—

人と防災未来センターでは、8月から10月まで月に1回「地震体験車ゆれるん」による地震の揺れ体験を実施します。ぜひ、この機会にご来館ください。



〔日 時〕8月17日(土)13:30～15:00
9月21日(土)14:00～15:30
10月26日(土)時間未定
〔会 場〕人と防災未来センター屋外ひろば

〔対 象〕小学生以上(1人から参加できますが、体験時は複数人になります)

〔体験時間〕約30秒～1分

〔参 加 費〕無料

〔参加方法〕

- ・当日、会場にて先着順(終了時間は延長しません)
- ・雨天中止(小雨または実施途中でも中止します)

〔主催・問い合わせ〕

神戸市消防局 市民防災総合センター
TEL 078-743-3799
(平日8:45～12:00、13:00～17:30)

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構

阪神・淡路大震災記念 人と防災未来センター

〒651-0073 神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2

観覧案内・予約／TEL 078-262-5050 <https://www.dri.ne.jp/>

開館時間

9時30分～17時30分(入館は16時30分まで)

入館料金

大人:600円(450円) 大学生:450円(350円)

東館のみ観覧の場合

大人:300円(200円) 大学生:200円(150円)

高校生・中学生・小学生:無料

※()内は20名以上の団体料金

※障がい者、70歳以上の高齢者割引有

※毎月17日は、入館無料(17日が休館日の場合は、翌18日となります)

休 館 日

毎週月曜(月曜が祝日の場合は翌平日)、12月29日～1月3日

※ゴールデンウィーク期間中(4月29日から5月5日まで)は無休

※資料室の開室日についてはホームページでご確認ください

交 通

鉄道

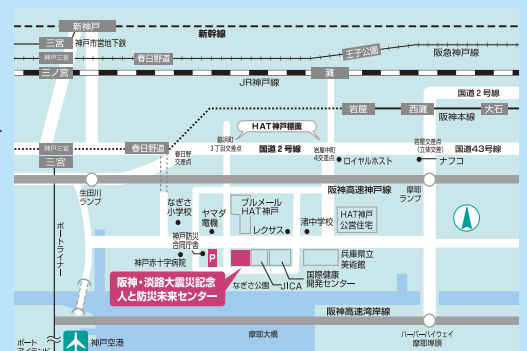
- ・阪神電鉄「岩屋」駅、「春日野道」駅から徒歩約10分
- ・JR「灘」駅南口から徒歩約12分
- ・阪急電鉄「王子公園」駅西口から徒歩約20分

バス

- ・三宮駅前から約15分

車

- ・阪神高速道路神戸線「生田川」ランプから約8分
- ・阪神高速道路神戸線「摩耶」ランプから約4分
- ・阪急・阪神・JR「三宮」駅から約10分
- 有料駐車場あり



新任研究調査員紹介

■杉原 優太(すぎはら ゆうた)

皆さま初めまして。令和6(2024)年4月から人と防災未来センターの研究調査員に着任しました、杉原優太と申します。

私は鳥取県庁から派遣されました。入庁15年目、土木技師という職種で公共土木工事の設計、工事発注、工事の施工管理を行ってきました。災害時は公共土木施設の災害復旧や応急復旧等を行ってきました。

令和2(2020)年7月豪雨の時には、熊本県の芦北町役場に土木技師として派遣されて約半年間、芦北町の公共土木施設の災害復旧の支援を行いました。その後、鳥取県に帰ってきてからは土木防災担当として、県の災害復旧事業の取りまとめも行っていました。

私は今まで、土木行政しかやってこなかったのですが、防災および災害対応には土木以外に危機管理、福祉、農

林といったさまざまな分野があります。土木だけではなく防災および災害対応の全体・全般について学びたいと思い、こちらに來させていただきました。

また、人と防災未来センターでは鳥取県で仕事をしているだけでは会えないような方々とお会いすることができると思っていますので、その方々とも交流を深めて自分の知見を広げていきたいと考えています。

1年間という短い期間ではありますが、土木以外の防災についても多く学んで、その知識を県の防災および災害対応にフィードバックしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



新任震災資料専門員紹介

■福嶋 純之(ふくしま あつし)

4月から震災資料専門員として着任しました福嶋純之と申します。私は富山大学で日本・東洋美術史や伝統文化論、民俗学、博物館学を学び、卒業論文では須磨琴を対象に伝統芸能の普及活動について研究しました。修士課程では城郭における博物館活用に着目して、史跡における博物館展示や資料活用の研究をしました。

私はこれまで直接的に地震被害を受けたことはなく、今年1月1日に起きた能登半島地震の時も地元である神戸に帰省していました。しかしテレビで見た輪島朝市の火災や、富山に戻った時に見た道路の損傷・液化化現象^{ほうよう}は、災害学習で見た阪神・淡路大震災の映像を彷彿とさせるものでした。見慣れた風景が地震によって一変したことへのショックは大きかったです。同時に、富山県高岡市で開催された「日本海なべ祭り」のようなイベントを通して、復興に

向けた人々の活力を垣間見ることができました。

阪神・淡路大震災からもうすぐ30年がたち、私も含め当時を経験していない世代も増えています。この災害を歴史(現代史)上の出来事として片付けるのではなく、震災の記憶を風化させず次世代へどのように継承していくかを模索する必要があります。また災害の恐怖だけでなく、復興への人々の営みや防災意識を伝えることも大切です。その一助として震災資料の展示活用や情報発信を積極的に行うことがこの資料室の役割であると考えています。震災資料専門員としてそれらの活動に取り組んでいきたいと思っています。



Hem21 NEWS
vol.106

令和6年7月発行

(公財)ひょうご震災記念21世紀研究機構
〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-5-2(人と防災未来センター)
<https://www.hemri21.jp/>

当機構は、以下の組織で構成しています。

●管理部

TEL 078-262-5580
FAX 078-262-5587

●研究戦略センター

▶研究調査部

TEL 078-262-5570
FAX 078-262-5593

●人と防災未来センター

TEL 078-262-5050
FAX 078-262-5055

▶学術交流部

TEL 078-262-5713
FAX 078-262-5122

●こころのケアセンター

〒651-0073
神戸市中央区脇浜海岸通1-3-2
TEL 078-200-3010
FAX 078-200-3017

ニュースレターに関するご意見・
ご感想を機構までお寄せください